

西小学校区「地域共生ステーション」意見交換会

開催報告

1 概要

- (1) 日 時 平成25年4月20日(土) 午前10時から正午
- (2) 場 所 桜作集会所
- (3) 参加者 18名
事務局 2名
- (4) 配布資料 別添のとおり

2 内容

(1) 地域共生ステーションの概要

(事務局)

地域共生ステーションは、市民のみなさんが気軽に集まり、語り、地域における様々な取組みを行うための拠点となる場所です。

この西小学校区においては、Aコープながくて西店の跡地を活用して「第1ステーション」ができます。地域で様々な活動を行っているみなさんと一緒にステーションの運営や活用について考えていきたいと思えます。

(幹事)

地域共生ステーションは、地域における福祉政策のベースであり、創造的な文化活動のきっかけづくりの場と考えている。「子育て」・「生きがい」・「ケア(助け合い)」の3つのテーマで、地域の中で困っている人を助けることができるようにしていきたい。

これまでのワークショップにおいて、地域交流施設の先進事例の視察を行ってきたが、継続的に施設を運営管理していくには、住民の意志が運営管理に反映しやすい形が望ましいと思った。民間企業が指定管理者として管理するよりも、地域の様々な団体が構成する協議会で運営管理している瀬戸市の地域交流センターの方法が住民意思の反映という点ではいいかと思う。

今後、先進事例を参考にしながら、ステーションの運営管理で新しい「長久手方式」を考えていかなければならない。その意味で、今、西小学校区で進めようとしている「第1ステーション」は、他の校区に対するモデルケースとなるものなので、しっかり考えていきたい。

(事務局)

施設レイアウトについて説明。

(参加者)

ステーションの管理に係る費用はどうなっているのか。

(事務局)

管理に係るスタッフの人件費、電気や水道・ガスなどの光熱水費、消耗品費などは、今年度は、市で予算措置している。人件費は、市で雇用する嘱託職員及び臨時職員の賃金となっている。今後、西小学校区で瀬戸市のような協議会ができて運営・管理していくようになれば、委託や交付金などで地域にお金を下ろす仕組みを考えている。

(参加者)

営利目的の喫茶店などはできるのか。それともボランティアでコーヒーなどを出すことになるのか。

(幹事)

地域で「それ」が求められているのか、必要なのかが、大きなカギになる。地域で必要なことをはっきりさせ、住民の「何かやりたい！」という思いをかなえる、できる方法をみんなで考えていかなければならない。

(参加者)

ステーションでできるかどうかの判断は市でするのか、地域でするのか。

(事務局)

どちらかではなく、「一緒に」考えていくことになると思う。

(2) ステーションの活用や運営についての意見交換

(参加者)

お年寄りの人たちが、楽しく話しながらできることが大事。手芸（編み物カフェ）やお茶、カラオケなど、そういう「場」をつくっていきたい。手芸も趣味の延長線で、地域で教え合うのもいいと思う。

（参加者）

なかなか地域に出て来ない人が出て来れるようにしたい。特に男性。定年退職後の男性の地域デビューには、奥さんの力が必要。

（参加者）

地域のいろんなボランティアグループは集まる場所に苦労している。グループの会議などに使いたい。

（参加者）

地域の困りごとを解決するワンコインサービスが気になっている。小学校区など、小さな地域単位でやっていくのがいいのではないか。

（参加者）

親子連れが集まる場にしていきたい。子供たちが気楽に遊びに来て、お年寄りの人に「昔遊び」を教えてもらえるような世代間交流もできるといいと思う。

（参加者）

小さな子連れの親子の居場所もちろんだが、中学生や高校生の居場所も必要だと思う。親子連れを惹きつけるためには「アピタ」を超える魅力が必要だと思う。

（参加者）

地域の困りごとの解決は、近所づきあいを濃厚にしすぎず、「気楽にあいさつできる近所づきあい」ができる程度の「ほのかなサポート」が理想。もちろん、そのためにはしっかりした仕組み・組織が必要になってくる。

（参加者）

喫茶店もいいが、居酒屋はできないのか。それに暮らしにかかわる日用品（指定ゴミ袋など）の販売などもできないか。近くにスーパーがなく困っている。

（参加者）

シニアクラブで活動していることの1つに「健康情報交換」がある。難しい話ではなく、誰もがわかるようにしている。地域包括支援センターと一緒に健

康体操をやっているが、老人憩の家は狭いのでステーションを使いたい。写真や囲碁など「部活」みたいにできるといいと思う。

（参加者）

会議では、集会所のように板の間に長時間座っていると疲れるので、腰掛けて会議ができるようになるといいと思う。あと駐車場も必要。

（参加者）

地域の交流を促す「コミュニティセンター」のような場所と考えている。

（参加者）

これまでのような豪華な「高級レストラン」風の公共施設ではなく、地域の「めし屋」のような施設になるといいと思う。

（参加者）

防災用の備蓄倉庫なども必要になってくると思う。

（参加者）

民間の力も借りて、何か特徴のあるものをつくらないと人は集まらないのではないか。

（参加者）

これからは、シニアだけでなく、子ども（+親）、そして、いろんな力をもった地域の人たちが集まって、ひとつのものをつくりあげていくことで「地域を動かす」ことができるようになってくると思う。

（3）今後の進め方

今後、この地域での集まり（運営協議会）を定例化して行っていく。

■次回以降の開催日程

開催日：5月13日（月）、6月10日（月）、7月8日（月）

開催時間：19時から

開催場所：桜作集会所にて

■次回（5月13日）の内容

- ・開館日、開館時間、会議室の予約方法、利用料など管理運営ルールづくり
- ・運営スタッフ（管理人）の募集

【当日の様子】



地域共生ステーションは、市民のみなさんが気軽に集まり、語り、地域のための様々な取組みを行うための地域の拠点です。



これまでのワークショップ①

4/25 第1回ワークショップ

市長講話、参加者自己紹介&地域共生ステーションへの思い披露

5/13 第2回ワークショップ

NPO法人地域福祉サポートちたによる「ワークショップの進め方」の講義を受けました。

その後、グループワークで、地域共生ステーションのアイデアを出し合いました。

アイデア

見守り(子ども⇔お年寄)
開放的 たまり場
縁側 音楽 イベント・行事 多目的に使える部屋
気軽 人が集まる仕掛け カフェ 映画
居ごこちいい 料理 遊び 朝市 集会スペース 会議室



5/24 第3回ワークショップ

ヒト・モノ・コトの視点で、基本コンセプトにつながる「地域オリジナルの場づくり」について考えました。

点⇒線⇒面

ヒト

自治会 民生委員 PTA
子ども会 シニアクラブ
ボランティア団体 NPO
子ども・高齢者・障がい者・
主婦、学生・・・
コーディネーター キャスト
核になる人

モノ

- ・居心地のいい場所
- ・歩いて行ける距離にある
- ・小さなステーションもあり
- ・校区にこだわらない

コト

- ・地域ニーズに対応
- ・地域ごとのルールづくり
- ・悩んでいる人が集まれる仕組み
- ・ヒト、モノ、情報～様々なものが集まってくる仕掛け

これまでのワークショップ②

6/23 第4回ワークショップ

高浜市「南部ふれあいプラザ」を訪問し、施設の運営を行っているNPO法人高浜南部まちづくり協議会の事務局長に話をお聞きしました。



7/13 第5回ワークショップ

これまでのワークショップで見えてきた3つのキーワード「集う」・「生きる」・「創る」をもとに、基本コンセプトの導き出しを行いました。



8/5 第6回ワークショップ

「基本コンセプト」(キャッチコピー)をまとめました。

気軽に

誰でも(ひとりでも)おいで

こやあ
『ふらっと小屋』

～一人ひとりが主人公～

敷居が低いフラットな場所

自由と役割、そして責任

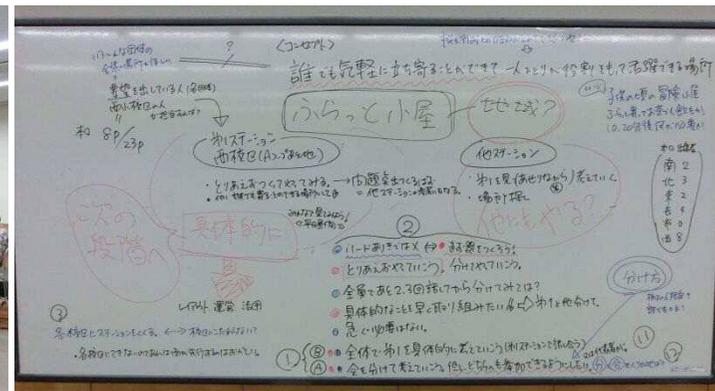
「誰でも気軽に立ち寄ることができて、一人ひとりが役割をもって活躍できる場所」



これまでのワークショップ③

10/18 第7回ワークショップ

ワークショップの今後の進め方について話し合いました。



第1ステーション部会

- 施設のレイアウト検討
- 施設の活用方法や地域活動の内容
- 施設の運営方法と運営組織づくり

★旧Aコープながくて西店を「第1ステーション」として具体的な検討を進める！

次のステーション部会

- 候補施設探し(まち歩き)
(空き家、空き店舗、公共施設、ほか)
- 地域活動のアイデア出し
- 各小学校区の検討組織づくり

★次のステーション開設に向けて検討を進めていく！

これまでのワークショップ④【第1ステーション部会】

11/5・7 現場見学会

第1ステーションとなる「旧Aコープながくて西店」の現場見学会を行いました。

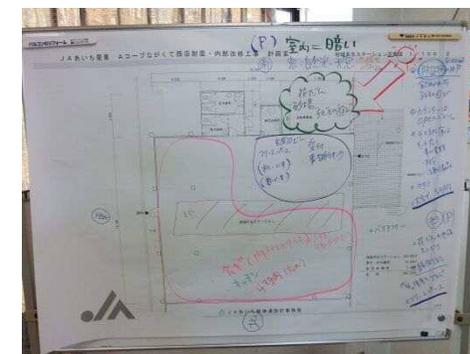


11/10 第1ステーション部会(第1回)

第1ステーションの使い方を考えながら、レイアウトを考えました。

アイデア

子どもの遊び場
事務・受付カウンター 会議室 キッチン
多目的スペース フリースペース



12/12 視察

高浜市「南部ふれあいプラザ」を訪問し、施設の運営を行っているNPO法人高浜南部まちづくり協議会の事務局長に話をお聞きました。



これまでのワークショップ⑤【第1ステーション部会】

12/13 現場見学・視察

第1ステーションとなる「旧Aコープながくて西店」の現場見学を行った後、尾張旭市新池交流館を訪問し、施設の運営などについて話をお聞きしました。



1/11 「ながくてやさしい市」開催

地域共生ステーションPRイベントとして、旧Aコープながくて西店駐車場にて「ながくてやさしい市」を開催しました。

参加者 約200人



1/12 第1ステーション部会(第2回)

改修工事の前提条件の整理を行い、活用方法を考えながら、レイアウトを考えました。

暮らしを豊かにする活動の「場」

アイデア

たまり場 会議室 キッチン
 事務・受付カウンター 授乳室
 多目的スペース
 フレキシブル対応 クッションフロア

子ども(親子)&お年寄



これまでのワークショップ⑥【第1ステーション部会】

2/7 第1ステーション部会(第3回)

前回までの話し合いの結果をふまえたレイアウト案により、実際の活用方法をイメージしながら考えました。

土足×…靴を脱いで上がる
素足でくつろげるように
車イスの方への対応
はだしエリア
キッズスペース

看板
愛称募集



2/13 視察

地域共生ステーションの運営について学ぶため、先進地視察を行いました。

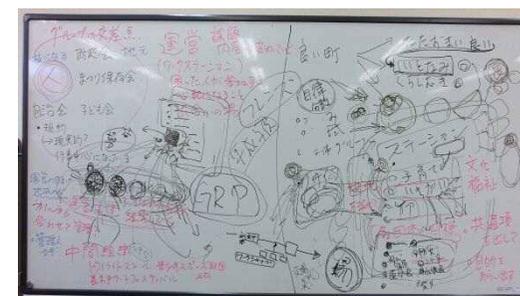
瀬戸市 道泉地域交流センター
多治見市 Mama's Café(ママズカフェ)



3/9 第1ステーション部会(第4回)

第1ステーションのオープンに向けて、運営・管理について話し合いを行いました。

今後は、西小学校区の地域で参加呼びかけを行い、実際の活用や運営について話し合いを行っていくこととなりました。



第1ステーション オープンに向けた今後の流れ

